

2. 第2回活性化プラン検討会議の開催結果

第2回検討会議の開催結果

開催日：11月7日（火）

【会議概要】

第1回活性化プラン小委員会でも出された意見の概要、及び出された意見を施策や取組へ反映する方向性について議論いただきました。



小委員会でも出された意見



意見の方向性 **議論**



プランの取組施策・取組内容

【結果】

取組内容について、事務局案をもとに次回の各小委員会にて、第2回検討会議の意見も踏まえ、取組指標とともに議論を深めていくよう意見をいただきました。

「生産性向上」小委員会における委員意見 と取組内容について

「ICT活用工事」

委員意見

10/18
小委員会
(生産性向上)

- Bランク企業にICTを活用する意識が不足している。
- 採算面が合わないのでICT施工を実施できない現場もある。実施率を上げるためには、実情に見合った設計額を設定する必要がある。

現状

三重県は平成30年度から本格的にICT活用工事に取り組んでおり、現在、実施率は65%、企業経験率はAランク64%、Bランク22%となっています。また施工者のアンケート結果からは、生産性が従来施工より約4割向上することを確認しています。



次期プランでの取組

- ・ 未経験企業を対象にICT活用工事のメリット等を説明し、企業経験率を向上させます。
- ・ ICT活用工事における採算性や生産性向上の効果が現場条件等でどう異なるかを検証し、より効果のある施工プロセスの活用例を示すなどを行っていきます。

※ICT活用工事とは、ドローンやICT建機により測量や施工など5つのプロセスで生産性を向上させる工事です。

以下の取組施策に反映

取組施策：① 建設現場における生産性の向上

「ICT全般」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- 発注者側が建設業界の実態を理解し、どの程度効果があるか検証することが必要。
- ASPや3次元測量などを使用して効率化した施工プロセスを評価する仕組みが必要。
- ICTは特殊な仕事であり、専門的な人材がいなければ難しい。(建機リース会社としては)最初は外注で一緒に取り組もうというスタンスで対応している。
- ICTを自社で行うには、専門的な人員を育成することが必要で、分業化していくことで利益がでて普及に繋がっていく。

11/7
検討会議

- ICTの人材育成について、資格制度が無い中で、研修を誰がどのような形で開催するか分からない

次期プランでの取組

- ・ 建設DXにより生産性向上を図った場合のインセンティブを検討します。
- ・ ICT研修会を開催するなど、ICTを活用できる人材の育成に取り組みます。
- ・ 建設企業のICT専門人材を育成します。

※ICT活用とは、ASPや遠隔臨場など、あらゆるDXにより生産性を向上させる取組です。

※ASPとは、インターネット上で工事書類のやりとり(提出・決裁)、図面などのデータ共有を行うシステムです。

以下の取組施策に反映

- 取組施策：① 建設現場における生産性向上
- 取組施策：② ICT人材の育成

「生徒への魅力の伝え方」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- 工業高校で学習する技術が一昔前の内容であり、学んだことが現場で活かせていないのではないかと。学校と地域で連携して今の技術で勉強会を開催することが効果的。
- 出前授業をした際、建設業の使命を説明することで就職を考える際の選択肢になる可能性があると感じた。
- 3Dを使用した方が見栄えが良い。若者が活躍できる場としてPRできれば、担い手の確保につながる。

11/7
検討会議

- 現場にとってもDX化は勉強しながら進めている段階。新入社員が入ってすぐ対応できるよう学校としてもDXの感性を育てていく。
- 工業系高校は3年生に研究課題がある。その中でDXを導入したモノづくりについて、班別学習や授業に組み込んでできると考えている。
- 伊勢工業の建築科ではAR技術を活用（地元企業と協力）し、3D図面にタブレットをかざせば実寸大で表示される実習授業を実験的に行っている。

委員意見

次期プランでの取組

- ・ 工業高校において、今の技術（ICTを活用した工事など）が学べるよう学校と企業とが連携して取り組みます。
- ・ 就職の選択肢に加えてもらえるよう、生徒に建設業の使命を説明します。
- ・ 魅力発信において、3D技術（BIM/CIMなど）の活用を含めた動画等により生徒にPRします。

以下の取組施策に反映

- 取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携
- 取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「週休2日制」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- 週休二日制は、公共土木は工期を確保できているが、民間建築は対応が難しい。
- 他の企業が土曜日に働いている状況を見ると、業界として良くないと思うため、業界全体として週休2日が浸透していくよう進めてほしい。

11/7
検討会議

- 週休2日制工事、市町への浸透が大事だが、市町議会の理解が進まない。週休2日によりコストが上がることを理解していない。



次期プランでの取組

- ・ 県工事以外（民間、市町）発注工事の週休2日制を促進させるため、民間発注者への普及啓発や市町への取組要請を行います。

以下の取組施策に反映

取組施策：① 週休2日制の定着

「バックオフィス」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- 技術者の仕事の6割が書類作成業務のため改善が必要。バックオフィスと現場が共同で取り組むリモート体制を活用する必要がある。
- バックオフィスを進めていくためには、企業内での体制づくりが必要。また人材においては、現場の基礎知識が一定必要。
- 建設業での新たな働き方が認知されはじめ、建設業のイメージアップにつながっている。キャリアパスを設定することで、自分のライフステージに合わせて、現場とバックオフィスを選択できるのではないか。

11/7
検討会議

- 現場も大事だが、バックオフィスのことも大事。オフィス仕事は、時間外削減ができる部分があると感じている人も多い



次期プランでの取組

- ・施工管理等の分業化を進めるための企業内の体制づくり、人材育成、環境整備に取り組む必要があり、バックオフィス導入促進などの支援に取り組みます。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 施工管理の効率化・分業化

「ASP活用」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- 県はASPをもっと推進してもらいたい。工夫して業務時間を削減することで、時間外労働時間規制に対応できる。
- ASPは書類や掲示板、設計図の図面など様々な場面で活用できる。
- ASPは受注者や発注者間だけでなく、社内での活用が進まなければ普及は難しい。
- 映像により現場を可視化し、遠隔で管理ができることは効果的である。
- 工事成績で点数をとるため、書類作成が非常に多い。

11/7
検討会議

- デジタル化が進むことにより高度化、複雑化が進むため、書類のスリム化が必要。
- すべてを電子化するのではなく、必要な分とそうでない分を精査していく必要がある。

次期プランでの取組

- ・ 施工管理だけでなく業務全般でASPの活用を推進・促進します。
- ・ 市町へASP導入に向けた説明会や支援に取り組みます。
- ・ ASPや遠隔の活用事例を紹介し、社内活用も促進します。
- ・ 工事書類の標準化に取り組みます。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 施工管理の効率化・分業化

「安全性の向上」

10/18
小委員会
(生産性向上)

- ICTは熟練度に関係無く施工でき、安全性も高い。BIM/CIMを活用すれば危険箇所も分かる。安全な作業、事故の減少によりイメージアップを図ることができる。
- ICT建機は、山合・谷合の現場で使用することが多い。ICT建機導入により安全性が高まる点をPRしている。



次期プランでの取組

- ・ 安全性を高めるためにも、ICT建機やBIM/CIMの活用を推進します。
- ・ 労働安全対策としてDXの活用を推進します。

以下の取組施策に反映

取組施策：③ 安全で快適な労働環境の実現

**「担い手確保」小委員会における委員意見
と取組内容について**

【魅力発信】

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 建設業の魅力を伝えることができていないことは学校側にも反省点がある。
- 業界全体を知ってもらうためには、個々の企業では負担が大きい。業界・行政で行うことが必要。

11/7
検討会議

- 生徒は、就職したら1日をどのように過ごすかよく分かっていない。職種ごとにどのような働き方をしているか、やりがいや、キャリアパスはどのような感じか動画で伝えられると良い。
- 動画のクオリティ、コンテンツも大事だが、どうやって見ってもらうか、広げるかが重要。
- 動画は何かと絡めて発信する工夫が必要（有名な声優・インフルエンサーな声優など）



次期プランでの取組

- ・ 建設業の現状や魅力(※)を発信する新たなツールとして動画を活用していきます。
- ・ 動画は学校・業界・行政の意見を踏まえ作成し、作成した動画は、企業や学校が、建設業界のPRや魅力発信のために使用できるようにしていきます。

※ 魅力・やりがいとは・・・

- ・ ものづくりの楽しさ・達成感 ・ 人命と財産を守る仕事
- ・ 地図に残る大きな仕事
- ・ 労働環境の変化（週休2日、建設ディレクターや建設DX）など

以下の取組施策に反映

取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「企業の採用活動」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 建設業は求人票に「作業員」と記載されるが、「技能職」等言い換えるべき。言葉を見ただけで候補から除外されてしまう。
- 大手企業は高校生の人材確保に力を入れており、生徒向けの採用HPを展開している企業もある。
- (建設企業は) 求人票については、業界全体として、時代に合わせた内容に更新していく努力が欠けているが、どのように書けばいいかわからない。
- 求人票の書き方など、教員との交流会の中で説明させてもらっても良い。
- 中小企業では、採用担当者を人材育成することが難しい。



次期プランでの取組

・建設企業が採用活動（求人票の書き方、魅力あるHPの作り方など）に関して進路指導教諭からのアドバイスを受け、より効果的な採用活動が実施できるように支援します。

以下の取組施策に反映

取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携

「出前授業等」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 普通科高校にも積極的に出前授業等を実施してもらっていることは頼もしく感じている。今後も力を入れてやっていただきたい。
- 地元企業の協力で建設業との交流会も取り組んでいる。多くの生徒が興味を持つことは難しいが、プラスに働いている。
- 高校のOB・OGが学校訪問することは効果的である。知っている先輩が入社1～2年目の社員として話をしてくれると生徒の心に刺さる。
- 建設業のやりがいを大きく発信する必要がある。

11/7
検討会議

- 大学の教育課程で、建設業がやっている内容を教えていくことが有効。10年、20年続けていくと理解が深まった生徒が教員になるため業界での理解が進む。
- 小中学校へも出前授業ができると小学校～大学までつながったアプローチになる。

次期プランでの取組

- ・ より多くの生徒に魅力を伝えるため、普通科高校に対し積極的に出前授業・現場見学会等を実施していきます。
- ・ OB・OG訪問の実施、ものづくりの楽しさや技術の習得など建設業のやりがいを発信することで、生徒の心に響く取組の実施を促進します。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「インターンシップ」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 建設業は現場の繋閉差があり、実施時期によってはインターンシップの実施が適切でない場合がある。現場の掃除しかさせてもらえず、イメージが悪化したケースがある。
- 企業見学時に説明者が一生懸命プレゼンしたことに心を打たれ、説明を受けた生徒の進路希望が変わったという話を聞いた。
- インターンシップに参加した生徒が、そのままその会社に就職したケースがある。
- 高校1年生を対象に、生徒が自らコースを選択して企業見学・体験ができる進路研究を実施している。就職後のイメージ、興味を持ってもらうため数年間継続している。
- 高校2年生の選択科目として金曜日（年間16回）に自宅から直接企業に行き、職場体験をするインターンシップを実施している

次期プランでの取組

- ・ インターンシップの場を利用した建設業の魅力発信を促進します。
- ・ 学校のカリキュラムに沿って、生徒の学年に応じた効果的な取組（実施時期、内容の検討）を実施していきます。

以下の取組施策に反映

- 取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携
- 取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「保護者への建設業のイメージアップ」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 生徒向け求人票管理システムアプリは保護者も閲覧できるため、効果的なツールとして広がりつつある。
- 就職活動や進学活動は、保護者が大きく影響を与えている。ほぼ内定していても保護者が反対して辞退された事例もある。
- 大雪発生時の雪氷対策など建設業への理解が深まってきているが、現在学生を子にもつ保護者の心を掴めていない。

11/7
検討会議

- 普通科の教員と交流したが、普通科の教員は旧の建設業のイメージが強く残っている。一般の家庭でも同じことだと感じた。



次期プランでの取組

- ・ 生徒や保護者が多く利用している求人票管理システムアプリを活用し、身近に情報が得られるような効果的な広報活動を促進します。
- ・ 保護者に対して、従来の建設業のイメージから転換できるよう、労働環境の改善の取組など、保護者に響く建設業の魅力発信を実施していきます。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「キャリアデザイン」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 若手女性社員にとって地域の建設業は、衣服等の恰好や勤務時間など比較的柔軟な働き方ができるため、自由度の高い職場であると捉えている様に思う。
- キャリアデザインを明確にして、自分の努力次第で実現できる事項など製造業とは違った魅力を見つけてもらいたい。



次期プランでの取組

- ・魅力発信においては、建設企業に他の産業にはない建設業ならではの魅力を聞き取り、発信していきます。
- ・建設企業においては、就職後のキャリアデザインを示すことが重要となるため、その取組（企業におけるキャリアデザイン作成）が実施できるように支援します。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

以下の取組施策に反映

取組施策：④ 人材育成・福利厚生

「新たな3Kへの取組」

委員意見

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 今の生徒は「給料」「休日」「きれい（勤務形態）」といった新たな3Kを重視しており、求人票でもこの3点は重要な項目である。

次期プランでの取組

- ・採用活動において、生徒のニーズを踏まえ、求人票への記載項目の改善を促進します。
- ・生徒が重要視する内容が実現できる労働環境を整えるため、適正な企業利潤の確保、週休2日、労働時間の削減、安全な職場環境等の実現に対して取組を実施します。

以下の取組施策に反映

取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携

以下の取組施策に反映

- 取組施策：① 週休2日制の定着
③ 安全で快適な労働環境の実現
④ 人材育成・福利厚生

「採用活動用パンフレット」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- どんな資格が取得できるか等、将来の仕事が見えて、どのくらいの給与水準かといったことがパンフレットに記載されている企業は先生からの評価が高い。

11/7
検討会議

- 生徒と年齢の近い若手社員の働き方、生活、収入など見える化すると良い。

次期プランでの取組

- ・ 生徒や教員のニーズを踏まえ、適切な情報を記載したパンフレットの作成を促進します。
- ・ 生徒に就職後の将来像を示していけるように、企業に対してキャリアパス（役職、経験年数、職務内容、必要とする資格など）の策定を促進します。

以下の取組施策に反映

取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携

以下の取組施策に反映

取組施策：④ 人材育成・福利厚生

「資格取得支援」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 資格の取得支援について、個人負担をいかに減らすかが人材育成としては大事。



次期プランでの取組

- ・ 工業高校において、在学中から就職後に必要となる資格の取得支援を実施していきます。
- ・ 企業において、若手従業員のキャリア形成に活かされる資格取得が促されるよう、必要な支援策を実施していきます。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 生徒・学生への魅力発信・動機付け

「U・Iターン人材の確保」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- U・Iターンは、その土地や人に魅力があって移住する。
- 衣食住だけでは人は来ない。教育や福祉、働く場所などがワンストップで提供されることで移住する。三重県の魅力発信と建設業をつなげていく仕組みがないと移住しようと思わない。
- 建設業の話を中心に持ってきても、生活していく上で不安材料があると移住しない。まず自分たちの生活ができることが前提。
- 空き家対策など、何かの取組施策と建設業の雇用を組み合わせで紹介することができれば良い。

11/7
検討会議

- 移住については、市町のHPを見る傾向にある。県のHPは見ないため、市町のロールモデルをピックアップすると良い。



次期プランでの取組

- ・ 教育や福祉、衣食住と合わせて建設業の魅力を発信していく取組を実施していきます。

以下の取組施策に反映

取組施策：③ U・Iターン人材等への働きかけ

「外国人労働者の確保」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 全体的に全産業で担い手不足となっており、ここ数年で解消されるとは思えない。
- 外国人労働者の育成も大きなテーマである。
- 監理者・技術者の外国人労働者はあまりみかけない。实例を作って欲しいと思う。
- 外国人労働者が現場に入ると、提出する書類が煩雑になると聞く。
- 困っている企業に対して、手続きで困らないよう行政が支援すべき。

11/7
検討会議

- 多言語表示が増えている。働いている人にニーズを埋めていくことで、多くの方に魅力が伝わっていく。他部局とも連携して働いていく環境を考えていくと良い。

次期プランでの取組

- ・外国人雇用制度への理解を進めるため、他部局が開催する外国人雇用制度に係る説明会等に建設企業が参加できるよう、業界への周知及び他部局との連携・調整を実施していきます。

以下の取組施策に反映

取組施策：③ U・Iターン人材等への働きかけ

「業務の分業化」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 社内分業による業務の効率化、時間外削減に効果があると考える。
- 建設ディレクター制度（バックオフィス）を取り組みたいと考えているが、なかなか若手（女性の方）に振り向いてもらえない。高校の求人にもどのように記載すればよいか分からない。
- 建設ディレクターに仕事を任せる側の現場監督が、現場状況を遠隔で説明できず現場に来てほしいと考えているため、分業化がうまく機能していない。
- 建設ディレクターの成功例を示すことで、建設企業が取り組むヒントになる。

11/7
検討会議

- 高校の教員は、建設ディレクターを全く知らない。何をする仕事なのかイメージしにくい。現場の動きと併せて、成功例を用いて学校に説明するとよい。
- 建設ディレクターという言葉にかっこいいイメージがわく。
- 建設ディレクターは協会があるので業務内容を参考にしてほしい。

次期プランでの取組

- ・バックオフィスの未活用企業向けに、活用している企業によるセミナー等を実施していきます。
- ・バックオフィスを活用した新しい働き方も生徒に伝えられるように、進路指導教諭からのアドバイスを受けながら、効果的に紹介できるように支援します。

以下の取組施策に反映

取組施策：② 施工管理の効率化・分業化

以下の取組施策に反映

取組施策：① 教育機関・建設業界・行政との連携 23

「週休2日制」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 以前と比較すると状況は改善してきているが、完全な週休二日には至っていない。人員を交代しようにも人員がない。
- 4週6休を達成しているが、4週8休には至っていない。
- 市町の工事は週休二日が評価される訳ではない。発注者の考え方に左右される。休み方に差がでてくる。

11/7
検討会議

- 週休2日制工事、市町への浸透が大事だが、市町議会の理解が進まない。週休2日によりコストが上がることを理解していない。



次期プランでの取組

- ・ 完全週休2日制工事や交替制モデル工事を推進します。
- ・ 市町の取組みが加速するよう県の取組を情報提供するとともに、啓発や必要な支援を実施します。
- ・ 建築確認審査機関等に対し、民間企業（建築確認申請者）の適正な工期設定、週休2日の確保、時間外労働時間の削減等の周知を依頼します。

以下の取組施策に反映

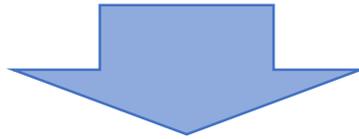
取組施策：① 週休2日制の定着

「安全な現場環境」

10/19 11/2
小委員会
(担い手確保)

- 以前より安全環境は改善されている。福利厚生も自信を持って伝えられるぐらいになってきている気がする。
- サマータイム導入は考えられる。夏は涼しい時間に作業して、早く終わらせて帰るほうが良い。フレックスができればよいが、近隣住民の苦情は発生する。
- サマータイムは有効かもしれない。イメージアップにもつながる。実証実験をしてはどうか。

委員意見



次期プランでの取組

- ・建設業の魅力発信として、安全環境の改善をアピールしていきます。
- ・フレックスタイムなど労働環境の更なる改善を検討します。

以下の取組施策に反映

取組施策：③ 安全で快適な労働環境の実現

第2回活性化プラン検討会議の開催結果

項目	業界から寄せられている意見の概要
高校へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none">• 普通科高校を含め三重県全体の高校へアプローチすることが大事。• 出前授業や現場見学会など、他の手法も含めて効果的な手法の検討が大事• 出前授業や現場見学会などの良い事例をマニュアル化してほしい
週休2日制工事の推進	<ul style="list-style-type: none">• 週休2日制は喫緊の課題。あわせて適正な工期の設定ということが必要。また発注時期、平準化も併せて検討も必要。• 土曜日工事は民間工事で多く、週休2日のアプローチが必要。あわせて市町についても同様にアプローチが必要。• 地域維持型業務や河川内工事などに対する週休2日制の考え方の検討が必要
バックオフィスの導入	<ul style="list-style-type: none">• 現場の負担を減らせるという意味で、建設ディレクター（バックオフィス）はいいこと。• 建設ディレクターの役割や立場を明確化してほしい。
遠隔臨場の推進	<ul style="list-style-type: none">• 遠隔臨場は、県全体で取り組むことによって、かなり効率が上がる。
現場事故防止の徹底	<ul style="list-style-type: none">• 事故防止のアプローチとしては、作業の途中段階でのパトロールなどが効果的
利潤確保の取組	<ul style="list-style-type: none">• 三重県の平均落札率は他県と比べて非常に低い。• 県内建設企業の工事受注量の確保が必要。• 担い手確保、技術者育成の取り組むための経費が必要。• 適正な諸経費、物価及び資材上昇分を適正に工事価格へ反映することが必要。